

枯れ木

そこかしこが新たに芽吹いて、周りはすっかり清々しい命の季節がやって来た。

そんな中、買物物の帰り道、対称的に街路樹のユリノキの細枝に、枯れてすっかり小さくしぼんだ葉が何枚かしがみついているのを見て、「葉っぱがあんなに小さく縮んでしまっている。我々もあんな風に、すっかり油も抜けて枯れてきているんだらうね」と、後ろの妻にしみじみ投げかけながら：

そういうえば、長年悩んできた肌荒れをびつくりするほどの治療効果を上げてくれている永山皮膚科の院長が言っていた話を付け足した。

「人は歳をとれば、油も抜けてカサカサになっていくのは当然のこと、火をつければ直ぐ燃えるように準備している訳で、決して病気でも何でもなく、悲観することは無い、などと、慰めているのか、絶望させているのか、解からない説明をするんだよ」

「それも行く度ではないが、時折り口に出す」

そんなことを言っていたら、

「次にまたそんなこと言ったら、ヤダーツ」と甲高く言えと、妻が後ろから投げ返してきた。

干からび老人、などとコケにされてばかりいないで、ちつとは頑丈な骨のあるところを示して来い！ということなのだ。

「！っ」

そして先日、一ヶ月ぶりに看てもらった際、「先生、二、三日放って置いたら、部分的にですが、また元に戻ったような荒れ方となりました。若い肌に戻ったのかな？と勘違いしてしまいました。やはり薬でカバーしていたんですね。」

先生曰く、

「神様がそうして（肌荒れさせて）いるんです。医者には神様の邪魔をしているんです。医者は悪者なんですよ。」

何だか、納得してしまいうんですよね。

